

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：26201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10614

研究課題名（和文）高齢者の尊厳ある死を目指す訪問看護師のターニングポイントの判断と実践の明確化

研究課題名（英文）Clarification of Turning Point Decisions and Practices by Home Care Nurses to Achieve Dignified Dying for the Elderly

研究代表者

片山 陽子（Katayama, Yoko）

香川県立保健医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：30403778

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、エンド・オブ・ライフケアを実践する訪問看護師が在宅高齢者の自分らしい尊厳ある生の全うを具現化するために行うターニングポイントの判断と、QOLの維持・向上を支え続ける看護実践プロセスの構造を明らかにすることである。看護師はターニングポイントの判断として、予後予測に基づいてトラジェクトリーを描き病態変化のポイントを見極めていた。高齢者の価値観を尊重する実践要素は、要介護高齢者の希望を叶えることが自分の務めという認識、高齢者が大切にしていることの探索、高齢者の大切にしていることの共有と希望の実現、笑顔で喜び合えた経験からのやりがいの獲得、自分自身の成長であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、EOLケアに携わる訪問看護師の判断と実践という実践知を可視化できることで、質の高いEOLケアの教育プログラム構築の基盤に資する。臨床的意義は、今後さらに増加する人生の最終段階にある高齢者のQOLの質向上に貢献できることである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the turning point judgments that home health care nurses practicing end-of-life care make to embody the fullness of life with dignity that is unique to the homebound elderly and the structure of the nursing practice process that continues to support the maintenance and improvement of quality of life. In judging turning points, nurses drew trajectories based on prognostic predictions to identify the point of pathological change. The practice elements of respecting the values of the elderly were identified as recognition that it is one's duty to fulfill the wishes of the elderly who need care, search for what the elderly value, sharing what the elderly value and realizing their hopes, gaining satisfaction from the experience of smiling and enjoying each other's company, and personal growth.

研究分野：在宅看護

キーワード：訪問看護師 尊厳ある死 ターニングポイント 判断 高齢者

1. 研究開始当初の背景

最期まで人として尊厳を持って生き、自分らしく住み慣れた地域で死を迎えることは、誰もが願うことである。人生の最終段階にある高齢者は、老化の進行により身体機能は回復と悪化のサイクルを繰り返しながら、徐々に衰弱し右肩下がりのカーブを描きながら死を迎える。在宅で支援する訪問看護師は、カーブの先を予測しながら医療専門職として適切な医療・看護を提供し、穏やかな死を迎える緩やかなカーブを作る役割がある。同時に、高齢者一人ひとり異なる“自分らしい人生”に寄り添い、尊厳ある生を全うするという QOL の維持・向上に貢献するケアのあり方が求められる。この穏やかで、自分らしい価値観を反映した生の全うが「望ましい死」である。この時、加齢に伴い身体機能の低下と共に QOL も低下するか、死にむかい機能低下は避けられなくても QOL は維持・向上できるかは、自分らしい生き方の具現化を目標とした看護実践のあり方と、ケア介入するタイミングの適切さによって左右される。それは見逃してはいけないエンド・オブ・ライフケア（以下、EOL ケア）のターニングポイントである。ターニングポイントの判断は、生命予後の予測が大きく関与する。がん疾患型に比べ非がんの予後予測は困難性が高いが、身体所見を基に指標を作成し臨床応用の重要性も指摘されている。看護師が実施する予後予測は応募者らの先行研究「訪問看護師の非がん終末期高齢者の予後予測」でその妥当性は高く、在宅医も頼りにしている実態を明らかにした。しかし訪問看護師は、その実践知から身体症状以外に生活変化を捉える視点とその他の観察点を併せて先を予測して、ターニングポイントを判断していると推察されるが可視化はされていないため、本研究で明らかにする。

近年、個別性や価値観の重視、支える医療の重要性が示されてはいるが、自分らしい人生という個別性の高い QOL の測定を試みた研究はない。生命の二重性理論は、生命の長さより人生という個人の物語がその人の QOL に関与することを指摘し、人生の最終段階の医療ガイドラインの基盤概念でもある。穏やかで尊厳ある死を望む高齢者に対して人生という時間軸を視点にした看護実践の必要性は明らかで、アウトカムとして主観的 QOL を設定した。本研究は、高齢者の発達課題でもある人生の統合を主体的に行う“自分らしい人生の全うという主観的 QOL”を重要概念とし、その概念の明確化と測定指標の開発をめざす。

2. 研究の目的

本研究の目的は、エンド・オブ・ライフケアを実践する訪問看護師が在宅高齢者の自分らしい尊厳ある生の全うを具現化するために行うターニングポイントの判断と、そのタイミングの前後を通して、人生という時間軸に添った視点で QOL の維持・向上を支え続ける看護実践プロセスの構造と実践の成果を明らかにすることである。本研究の学術的意義は、EOL ケアに携わる訪問看護師の判断と実践という実践知を可視化できることで、質の高い EOL ケアの教育プログラム構築の基盤に資する。臨床的意義は、今後さらに増加する人生の最終段階にある高齢者の QOL の質向上に貢献できることである。

3. 研究の方法

第1段階は、「EOLのターニングポイント」の判断の可視化である。

- 1) EOL期のターニングポイントとその判断の概念に関する国内外の文献の検討をする。
- 2) EOLケアの実践経験を有する専門看護師・認定看護師を対象にターニングポイントの概念とその判断についてインタビュー調査を実施する

第2段階は、「自分らしい人生の全う」という概念の明確化と測定指標の開発である。

- 1) 自分らしい人生の全うの概念に関する国内外の文献の検討をする
- 2) 訪問看護師を対象に「自分らしい人生を全う」した高齢者を想起してもらい、同様に概念の明確化を目的にグループインタビューを実施する

第3段階は、時間軸に添い、ターニングポイントの判断に基づいた実践過程の枠組みの明確化を目的に、訪問看護師にグループインタビューを実施し、デルファイ法で検証する

4. 研究成果

第1段階として、EOL期のターニングポイントとその判断の概念に関する国内外の文献の検討を実施し、その結果に基づきインタビューガイドを作成、EOL期のターニングポイントの判断の可視化を目的とした質的研究を実施した。質的研究は、EOLケアの実践経験を有する認定看護師6名を対象にターニングポイントをどのように判断しているかについてインタビュー調査を実施し、質的記述的方法で分析した。その結果、EOL期、特に終末期にある事例におけるターニングポイントについてその特徴が明確となった。看護師はターニングポイントの判断として、予後予測に基づいてトラジェクトリを描き病態変化のポイントを見極めていた。分析方法として、訪問看護師が対応したEOL期の療養者について各々のトラジェクトリを描き、時系列で療養者の状態と看護師の判断内容を基に分析を実施した。トラジェクトリは身体的曲線と心理曲線の2線で描いた結果、生物体としての変化のポイントが生じる前に、人生の物語りとしてのターニングポイントが生じていたことに着眼していた。そのポイントを判断するためには看護師が事例にとっての価値観を理解し、人生の物語りを共有していたことが必要であることが明確となった。

第2段階は、高齢者の尊厳ある死を目指す訪問看護師の実践の明確化を目的に、訪問看護師が実施する要介護高齢者の価値観の尊重に関して、抽出条件に該当した90件の国内文献を対象に概念分析を実施した。『価値観を尊重する実践』概念については、価値観とは自分が育ってきた生活環境や社会文化といった個人音持つ背景に影響を受けるものであり、その人らしさを形成する中核的な構成要素であると定義され、価値観の尊重の主な属性は、本人の希望を一番に大切にする、意思決定を支援するなど3つのコアカテゴリーが抽出された。また、訪問看護師を対象に「自分らしい人生を全う」した高齢者を想起してもらい、同様に概念の明確化を目的にグループインタビューを実施する訪問看護師へのインタビューは4名に合計10回(1名あたり2-3回)、1回あたり平均135分間実施した。対象の訪問看護師は認定看護師等でまず4名それぞれの語りの特徴を明らかにした上「高齢者の価値

観を尊重する実践」を分析軸として訪問看護師へのインタビューを実施し、質的記述的に分析し、5つの本質的要素を抽出した。本質的要素は、要介護高齢者の希望を叶えることが自分の務めという認識、高齢者が大切にしていることの探索、高齢者の大切にしていることの共有と希望の実現、笑顔で喜び合えた経験からのやりがいの獲得、自分自身の成長であることが明らかとなった。高齢者の価値観を理解するために、高齢者の価値観を理解するための実践を行っている様相が明らかとした。

第3段階は、人生の最終段階にある高齢者に対して実施した訪問看護師が行うターニングポイントの判断の明確化、訪問看護師の看取り期の臨床判断・臨床推論の特徴の明確化、を目的として、訪問看護ステーションにおいて、在宅看取りを行った事例を抽出、看取り期のケアに中心的に携わった訪問看護師を中心とした訪問看護師7名参加による事例分析を実施した。その中心的に携わった訪問看護師を対象として実践を振り返るインタビュー調査を実施し、高齢者本人の価値観を理解することがターニングポイントの判断につながることを検証された。事例分析にあたっては、高齢者の主疾患をがん疾患、非がん疾患に区分して、疾病の軌跡と、高齢者本人の意思が反映される言動、及び家族などの状況も加えた情報を加えて事例を描写することを中心に事例分析法を用いて実施した。分析結果として、ターニングポイントの判断は、行動の狭小化、そのことに気づいた家族の言動、高齢者本人の価値観に対する言動をもとに判断していたことが事例に共通した構造であることが明確化した。さらに訪問看護師、訪問診療医、在宅ケア研究者等を対象としたエキスパートパネルを選定し、デルファイ法を用いて事例分析によって得られたターニングポイントの判断について検証を実施した。

引用文献

訪問看護実践と成果のつながりを可視化するために - 日本語版オマハシステムの開発に向けて(第15回)希少難治性疾患の小児の例 -、片山陽子、訪問看護と介護、22(11)、査読なし、862-867、2017。

アドバンス・ケア・プランニングの関連用語と概念定義、本人の意思を尊重する意思決定支援 - 事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング -、片山陽子、長江弘子、西川満則、他、南山堂、1-7、2016。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは、エンド・オブ・ライフケアと在宅ケア(在宅ケア学)、片山陽子、日本在宅ケア学会、第6巻、査読なし、27-34、2015。

がんを含む慢性疾患3類型別にみた訪問看護師の予後予測の的中率と症状との関係、片山陽子、長江弘子、斉藤信也、酒井昌子、日本在宅ケア学会誌、17巻2号、査読あり、37-44、2014。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 濱崎彩子、片山陽子	4. 巻 29
2. 論文標題 認知症高齢者重症度別の意思決定支援内容と実施状況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ホスピスケアと在宅ケア	6. 最初と最後の頁 184-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shima Sakai, Hiroko Nagae, Mitsunori Miyashita, Takako Iwasaki, Sayaka, Yoko Katayama, et al.	4. 巻 63(3)
2. 論文標題 Developing an Instrument to Assess the Rediness for Advance Care Planning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6. 最初と最後の頁 377-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 小池愛弓、岡田麻里、長江弘子、仁科祐子、坂井志麻、片山陽子、乗越千枝、他	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 継続看護マネジメント教育プログラムにおける看護職の学びの特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 216-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kuzuya Masafumi, Aita Kaoruko, Katayama Yoko, Katsuya Tomohiro, Nishikawa Mitsunori, Hirakawa Satoshi, Miura Hisayuki, Yanagawa Madoka, Arai Hidenori, Iijima Katsuya, Okochi Jiro, Kozaki Koichi, Yamaguchi Yasuhiro, Rakugi Hiromi, Akishita Masahiro	4. 巻 20(12)
2. 論文標題 The Japan Geriatrics Society consensus statement "recommendations for older persons to receive the best medical and long-term care during the COVID-19 outbreak: considering the timing of advance care planning implementation"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1112-1119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuzuya Masafumi, Katayama Yoko, Katsuya Tomohiro, Nishikawa Mitsunori, Hirahara Satoshi, Miura Hisayuki, Raugi Hiromi, Akishita Masahiro	4. 巻 20(11)
2. 論文標題 Japan Geriatrics Society "Recommendations for the Promotion of Advance Care Planning": End-of-Life Issues Subcommittee consensus statement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1024-1028
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 61 (6)
2. 論文標題 【すべての看護師にとっての「地域・在宅看護論」】すべての看護師が身につけたい「目標志向型」の考え方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 0478-0486
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 2 (5)
2. 論文標題 地域包括ケアとACP	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年医学	6. 最初と最後の頁 563-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 29(4)
2. 論文標題 【アドバンス・ケア・プランニング】地域におけるACPの実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aging & Health	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22(4)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 02) 価値観の理解 言葉にならない声を聴く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 03) 言葉に込められた意味を汲み取る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22(7)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 04) ACP開始のタイミング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22(8)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 05) 本人の揺れ動く気持ちに添うACPの実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22 (9)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume06) 家族の思いの「揺れ」と「ズレ」に対処する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22 (11)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 08) 意思表示を妨げる"壁"を取り除く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22 (10)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 07) 本人にとっての最善を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 22 (12)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 09) 認知症の人へのACP	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 10) 代弁者の選定と支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP(Volume 11) 多職種チームの合意形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山陽子	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 さらに究める!実践力 これならできる!毎日の実践で活かすACP 看取った後の家族の納得感を高める	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱崎彩子、片山陽子	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 看護師の認知症高齢者への意思決定支援に対する態度尺度の信頼性・妥当性の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本エンドオブライフケア学会誌	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長江弘子、片山陽子、乗越千枝	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 エンドオブライフケアを支える語り合い、アドバンスケアプランニングの基本的考え方とわが国の実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 片山陽子、大橋英司
2. 発表標題 在宅移行・在宅生活の継続を支援する在宅医療コーディネータ養成 - 医師会と行政の協働で実施する
3. 学会等名 第3回日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧本真実、片山陽子
2. 発表標題 小規模事業所に所属する訪問看護師の職場内サポートの実態
3. 学会等名 第4回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山陽子
2. 発表標題 ACP推進に関する提言 ACP推進に関する提言 地域の取り組み
3. 学会等名 日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂井志麻、長江弘子、宮下光令、原沢のぞみ、岩崎孝子、片山陽子、竹之内沙弥香、池田真理、伊藤真理、田村恵子
2. 発表標題 自己の価値や生き方を表明するACP準備性尺度の開発：信頼性、妥当性の検討
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内 千夏、岡西 幸恵、植村 裕子、辻 よしみ、片山 陽子
2. 発表標題 看護学生の学修活動における主体性を育む要因に関する文献検討
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱崎彩子、片山陽子
2. 発表標題 認知症高齢者に対する看護師の意思決定支援の状況とその関連要因
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦雅美、片山陽子
2. 発表標題 家族との絆を大切にした終末期がん療養者のエンドオブライフケアを振り返る
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋野陽子、加治佐直子、金井菜穂子、松田良信、片山陽子
2. 発表標題 看取り期に家族関係の課題に直面しその調整に難渋した一時例
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野優子、三浦雅美、片山陽子
2. 発表標題 クロイツフェルト・タコブ病療養者の家族の代理意思決定と意思実現への支援
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂井志麻、長江弘子、原沢のぞみ、岩崎孝子、川原美紀、片山陽子、竹ノ内沙弥香、池田真理、伊藤真理、田村恵子、宮下光令
2. 発表標題 一般市民におけるAdvance Care Planningに対する認識の実態調査
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片山陽子
2. 発表標題 ACPの推進に関する提言 ACP提言の解説、地域包括ケアにおけるACPと本人の意思を尊重するための代弁者
3. 学会等名 日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片山陽子、酒井昌子
2. 発表標題 訪問看護師の予後予測と予測に基づく意思表示支援の実態
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第2回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 濱崎彩子、片山陽子
2. 発表標題 離島であるA島における訪問看護師の活動報告
3. 学会等名 日本ルーラルナース学会第13回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片山陽子
2. 発表標題 本人の意思を尊重する意思決定支援
3. 学会等名 第66回日本医療社会福祉大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 日本看護協会出版会編集部編、担当部分単著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 744
3. 書名 新型コロナウイルス ナースたちの現場レポート	

1. 著者名 片山陽子他、長江弘子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 644
3. 書名 訪問看護基本テキスト 各論編	

1. 著者名 片山陽子他、長江弘子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア 第2版	

1. 著者名 片山陽子他、百瀬由美子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ヌーヴェルヒロカワ	5. 総ページ数 460
3. 書名 老年看護学 概論と看護の実践 第6版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長江 弘子 (Nagae Hi roko) (10265770)	亀田医療大学・看護学部・教授 (32529)	
研究分担者	酒井 昌子 (Sakai Masako) (60236982)	聖隷クリストファー大学・看護学部・教授 (33804)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------